資料５

南区自治協議会（第８期）を振り返って

南区自治協議会会長　髙橋　直廣

１　はじめに

第８期の南区自治協議会は、第７期から続くコロナ禍の中でのスタートとなりました。リモートによる参加や基本的な感染対策の実施など、委員の一人ひとりが気を配り、苦心しながらも会の運営を進めてきました。

感染対策のためにマスクを着用し、三密を避けるために会話もためらい、委員の素顔も分からず、和やかな雰囲気の中での会議の開催をめざしたものの、かなわなかったことが悔やまれます。また、地域におけるさまざまな取組においても、開催の是非、人数制限、規模の縮小など制限を強いられた２年間でした。

区自治協議会提案事業では、各部会が課題をどのように解決したらよいのか知恵を出し合い、議論しながら計画を立てて実施しました。歯止めのかからない人口減少への対策、まちなかの活性化、市内８区の中で唯一鉄道のない南区にとって重要な課題である公共交通利用促進など、さまざまな事業が展開されました。

第９期に向けて、委員が区自治協議会運営で課題としている項目について、意見交換をしましたので、併せて報告いたします。

２　取組内容・成果・課題

(1)　全体会について

ア　会議運営方法の見直し

第７期から新型コロナ感染予防対策のため、必要に応じて全体会の書面による開催や事務局の一部のリモートによる参加を実施しておりました。今期は事務局に加え、委員も全体会や部会にリモートで参加できるよう環境を整えました。

また、スムーズな会議運営ができるよう、全体会終了後に毎回、会長・副会長の２役と事務局で振り返りの会議を行い、次回以降の会議に活かしました。

イ　南区自治協議会委員研修会の開催

令和３年度は、委員が南区の歴史に触れ、地域の魅力を再発見することにより、区自治協議会の活動がさらに活性化することを目的として「しろね大凧タウンガイド」による白根商店街周辺のまち歩きを行いました。

令和４年度は、南区自治協議会委員の女性比率が低いことなどから、地域社会

における女性活躍の大切さや、意思決定の場への女性参画の必要性について学ぶことを目的として、南区出身でテレビコメンテーターの金子恵美さんを招き、講演会を行いました。一般参加者も募り、大勢の方が参加されました。

ウ　区ビジョンまちづくり計画

新潟市は令和 5～12 年度の市が目指す姿の実現に向けた指針である「新潟市総合計画」を策定しました。南区においても「南区区ビジョンまちづくり計画」を策定し、まちづくりの方向性を示しました。

南区自治協議会では、令和３年１２月に開催された「区ビジョンまちづくり計画策定　南区自治協議会ワークショップ」や、各部会で協議を行い、よりよい計画となるよう意見を述べました。

⑵　部会・提案事業について

ア　第 1 部会

第１部会は、公共交通、防犯・防災、環境、建設、都市計画などの分野を所管します。

提案事業としての主な取組は「南区公共交通ＰＲ事業」（令和 3 年度）、「南区生活交通利用啓発事業」（令和４年度）、「南区防災啓発事業」です。

公共交通に関する事業では、区バスなどを利用する人に分かりやすい「公共交通ガイド」を作成しました。また、地域ごとのニーズを反映した視覚的で分かりやすい「my 時刻表」を６種類作成し、これを活用して地域の茶の間などへ出向き、PR 活動を行いました。

また、区バス・乗合タクシーの新規利用者を増やすため、複数人で乗車すると運賃助成が受けられる助成チケットを配布し、利用啓発を図りました。

南区防災啓発事業については、令和３年度は、防災意識の啓発を図るため、調査研究を行いました。令和４年度は、これを踏まえて、区内の危険箇所を把握し、掲載する情報の整理を行い、防災マップを作成しました。

イ　第 2 部会

第２部会は、健康・医療、福祉、教育、地域、男女共同参画などの分野を所管します。

第８期は「南区家族ふれ愛事業」と「出会いの場づくり事業」に取り組みました。

「南区家族ふれ愛事業」では、家族のつながりを大切にし、温かい家庭をつくることを目的として、11 月を「南区家族ふれ愛月間」と定め、南区内の小学 4 年生による絵画展、中学 1 年生による川柳・標語展を行いました。令和 4 年度は、「南区家族ふれ愛月間」により親しみを持ってもらうため、賞を設定し、受賞者に賞状と賞品を贈りました。

「出会いの場づくり事業」では、少子高齢化対策について重点的に取り組み、定住人口を増やすことを目的に婚活事業に取り組みました。

ウ　第 3 部会

第３部会は、産業、観光、文化・スポーツなどの分野を所管します。第８期は「まちなか活性化事業」と「しろね大凧と歴史の館の展示替えに関する調査研究」に取り組みました。

「まちなか活性化事業」は、地域の食や観光資源などの掘り起こしや「まちなか」の活性化を目的として、南区の特産品や農産物の販売イベントとまち歩きをリンクさせた「南区味わい市場」を令和４年度に開催しました。伝統ある六斎市と同時開催することで、露店市の魅力を知ってもらうこともできました。

「しろね大凧と歴史の館の展示替えに関する調査研究」は、館への誘客を図るとともに、白根大凧合戦を通年で楽しんでもらえるよう、館の施設長を始めとした凧合戦関係者と意見を交わし、館の床面に躍動感のある凧合戦写真のラッピングを施しました。

エ　広報部会

広報部会は、広報に関することを所管します。

第８期は「南区自治協議会だより」を各年度３回、計６回発行しました。

区自治協議会や部会の活動、まちづくり活動サポート事業の取組などを紹介し、区自治協議会をより身近に感じてもらえる紙面づくりに努めました。今期から、より多くの人から読んでもらえるよう、新聞折り込みではなく、区役所だよりの中に掲載することとしました。

オ　まちづくり活動サポート事業

提案事業の一部を区内の地域活動団体などから募集し、区自治協議会が選定・採択して協働実施する「南区まちづくり活動サポート事業」は、令和３・４年度ともに７事業を採択しました。

この事業は平成 30 年度から実施しており、定着しているため、応募団体も多く、多様な事業が提案・実施されています。

令和 3 年度は、市内外に広く波及効果が見込まれる事業は 2 回まで申請できることに、令和４年度は応募対象者に民間企業や団体を加えることとし、より南区の活性化に寄与できる事業となるよう、募集要項を改正しました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

３　おわりに

南区には言われて久しい課題が数多くありますが、人口減少、少子高齢化が他都市に比べても早いペースで進行し、より解決が困難になってきています。加えて、まちなかの活性化や区民の移動手段の利便性の向上など、第 8 期の南区自治協議会では、そうした困難な課題に対しても真摯に向き合い、一定の成果を上げることができたものと考えています。

地域づくりは地域住民や団体の皆さんが、自らが暮らすまちに関心を持ち、できることを助け合いながらやっていくことが重要です。南区では区自治協議会の活動など大勢の区民の皆さんの参画が進んでおり希望を感じます。

第 9 期では、男女を問わず幅広い年代の方からの多様な意見を反映し、地域と行政の協働の要としての役割が一層推進されることを期待します。

令和３年度

資料4-1

令和4年3月29日

区自治協議会提案事業　事業評価書

南区自治協議会第1部会

区　分	内　容
テーマ・事業名	・南区公共交通PR事業 ・南区防犯・防災啓発事業　　【事業費予算　1,250千円】
事業目的・概要	【南区公共交通PR事業】 ・南区の区バス・住民バス・乗合タクシーの利用啓発を図り，利用者数増加につなげるため，情報紙などの作成や地域の茶の間でのPR等を行う。 【南区防災啓発事業】 ・防災意識の啓発のための活動を行い，安全で，住みよいまちづくりにつなげるための仕組みの検討等を行う。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	【南区公共交通PR事業】 〇公共交通利用促進事業の実施（新規） ・実施期間：7月19日～12月28日 ・実施内容：南区のグループの方が会議や町内行事等での移動、または乗車体験で南区バス・乗合タクシーの利用の際に乗車チケットにより運賃を助成する。 ・利用実績（別紙資料を参照） 〇地域のニーズを反映した委員によるmy時刻表の作成（新規） 〇南区公共交通ガイド、乗合タクシー利用チラシの作成、配布（継続） 〇区バス協賛広告の更新（継続） 〇医療施設や商業施設内にチラシを設置（21施設）、地域の茶の間で公共交通の取り組みPR（7ヶ所）（継続） 【南区防災啓発事業】 防災意識を啓発するため、大通コミュニティ協議会の資料を使用し、調査研究を行った。また当該事業を次年度への継続事業とし、今年度、部会の中で重ねた協議内容を活かすこととした。
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	【南区公共交通PR事業】 〇昨年まで実施していた装飾バスの運行に代わり、今年度、利用者に直接的にバス運賃が助成される利用促進事業を実施した。 8月後半から9月に新型コロナウイルス感染症が拡大したため9月の利用実績は落ち込むも9月以降は地域の茶の間に出向き、事業PRを積極的に行ったことで事業の利用が伸び、昨年度に比べ利用が伸びている区バス・乗合タクシーの利用の後押しに繋がった。 〇各委員発案したmy時刻表について、現行の時刻表では分かりにくいという地域の声に対して、各地域で求められている時刻表のニーズを聞き取り、意見を反映させて作成した。今後、効果的な設置場所や配布方法について検討していく。 【南区防災啓発事業】 〇防災に関して、大通コミュニティ協議会の資料を使用し、調査研究を行うことで知識を深めるとともに、来年度作成予定である地域防災マップにつながるアイデアが生まれた。
備考	

※裏面あり

令和３年度

資料 4-2

令和4年3月29 日

区自治協議会提案事業　事業評価書

南区自治協議会第2部会

区　分	内　容
テーマ・事業名	◆南区家族ふれ愛事業 ◆南区出会いの場づくり事業　　【事業費予算　1,250千円】
事業目的・概要	◆南区家族ふれ愛事業の10年目として、児童・生徒の絵画・川柳展を行い、「家族ふれ愛月間」のさらなる定着を図る。 ◆少子化対策、晩婚化・未婚化対策、定住化の促進を目的として、独身の男女を対象に、南区での出会いイベントを開催する。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	◆南区家族ふれ愛事業 〇南区「家族ふれ愛月間」絵画展、標語・川柳展の開催 ■日時：令和3年11月6日（土）～11月30日（火）　■会場：白根学習館1階　交流広場 絵画展/標語・川柳展　展示総数：679点 ・（絵画）南区内小学校4年生の児童349人から出品があった。 ・（標語・川柳）南区内中学校1年生の生徒330人から出品があった。 ※地区文化祭、地域生活センターで絵画・川柳展示 展示箇所：臼井中、臼井小、庄瀬小、月潟中、大通地域生活センター ◆出会いの場づくり事業 〇「クリスマスパーティーinサルナート」の開催 ■日時：令和3年12月12日（日）　午後2時から　■会場：サルナート 参加者：男性20人，女性16人　※9組のカップル誕生 ・ゲーム大会等により交流を図り、カップリングを行う婚活イベントの実施。
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	自治協議会各部会でワークショップを実施し、各々が考える地域課題の抽出と問題意識の共有を図った。同協議会第２部会では、「若者の定住率向上（少子高齢化対策）」を最重要課題と位置付け、課題解決に向けて取り組んだ。 ◆南区家族ふれ愛事業 【評価】 〇南区「家族ふれ愛月間」絵画展、標語・川柳展 ・例年より出品数が多く、見応えのある展示になった。 ・アンケート結果からは「子どもたちは父母の姿をよく見ていることがわかる」、「子どもたちにとって家族がいかに大切な存在であるかを改めて教えてもらった」などの感想が寄せられ，家族のふれあいを意識づけるよい機会となった。また、「今年も楽しみにしていた」「この展覧会を続けてほしい」などの声もあり、本事業が深く定着してきている。 【課題及び今後の取組】 ・今年度は出品数が多く、これまでのレイアウトだと展示しきれなかったため、今後展示方法の検討が必要である。 ・小学生の絵画出品については保護者や学校から負担の声も聞かれるため、対象や募集方法を見直しながら継続していく。 ・今年度は例年行っていた上映会等のイベントを行わなかったが、今後どのような内容が本事業として有意義か検討していく。 ◆出会いの場づくり事業 【評価】 ・男性は定員を超える応募があったが、女性は16人で定員に届かなかった。 ・昨年度に続きコロナ禍での開催となったが、感染症対策を施しながら実施することができた。 ・昨年度の参加者アンケートの声を活かして、話す機会をより多く作ることができた。カップル数も9組成立し昨年度の6組を上回った。 ・参加者アンケートからは、「大変楽しく有意義なパーティーだった」「また参加したい」というような感想が寄せられ、本事業へ期待が感じられる。 【課題及び今後の取組】 ・カップル数は多く成立したが、女性参加者が最後まで集まらなかった。継続5年目の事業であり、開催内容や周知方法を見直していく必要がある。
備考	

令和３年度

資料４－３

令和4年3月29日

区自治協議会提案事業　事業評価書

南区自治協議会第3部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	◆しろね大凧と歴史の館の展示替えに関する調査研究 ◆まちなか活性化事業　【事業費予算　1,000千円】
事業目的・概要	◆しろね大凧と歴史の館の展示替えに関する調査研究 ・白根大凧合戦が単に凧揚げではなく「凧合戦」であることを来館者にアピールし、誘客を図ることで凧の文化を広く啓発することを目的に、しろね大凧と歴史の館の展示替えに関する調査研究を行う。 ◆まちなか活性化事業 ・白根のまちなかを会場に南区の特産品や農産物の試食販売イベントとまち歩きをリンクさせ、地域の食や観光資源等の掘り起こしを行うことで魅力の再認識を促し、中心商店街の活性化を図る。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	◆しろね大凧と歴史の館の展示替えに関する調査研究 同館の展示替えを通じて広く凧の文化を啓発するため、以下のとおり調査研究を行った。白根大凧合戦の関係者をはじめ、学芸員を有する同館職員なども招へいし意見交換を重ねた。当該事業を次年度への継続事業とし、今年度の成果を展示替えに活かすこととした。 ■実施回数：令和3年5月～令和4年2月　計8回（9月・1月は新型コロナのため中止） ■会場：しろね大凧と歴史の館ほか ■参加者：区自治協議会委員、南区観光協会員、凧合戦協会員、しろね大凧と歴史の館職員、南区産業振興課職員など ◆まちなか活性化事業 〇しろねの宝さがしとまち歩きの開催 新型コロナウイルスの影響により、感染拡大防止の見地から予定していた当該事業は中止せざるを得なかった。
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	自治協議会各部会でワークショップを実施し、各々が考える地域課題の抽出と問題意識の共有を図った。同協議会第3部会では観光の振興を最重要課題と位置付け、課題解決に向けて取り組んだ。 ◆しろね大凧と歴史の館の展示替えに関する調査研究 ・南区の特徴の一つで大切な伝統文化でもある「白根大凧合戦」に改めて着目し、特色ある区づくりに資するため調査研究を行った。様々な立場の関係者から意見聴取し、その思いや現状と課題について再認識することができ、改善策等について意見交換を重ねる機会を得ることができた。凧合戦会場の臨場感が得られるような工夫策や、視覚だけでなく聴覚等にも訴える演出など様々なアイデアが生まれた。 ・これらの事業成果を次年度に引き継ぎ、具現化できるアイデアから着手し、展示替えに取り組むこととした。 ◆まちなか活性化事業 〇しろねの宝さがしとまち歩き ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、中止を余儀なくされた当該事業を次年度に引き継ぎ、実施することとした。 ・まち歩きを通して南区白根の歴史を再認識してもらうとともに、南区産の果物や野菜、銘菓などを味わい南区を広くPRする事業を実施する。
備考	

令和３年度

資料4-4

令和4年3月29日

区自治協議会提案事業　事業評価書

南区自治協議会（全体会）

区　分	内　容
テーマ・事業名	南区まちづくり活動サポート事業 【事業費予算　2,500千円】
事業目的・概要	地域活動団体と連携することにより今まで以上に効果的な事業展開を図るため，南区区ビジョンまちづくり計画に掲げる様々な地域課題の解決につながる取り組みを，南区内に主たる活動拠点を有する地域活動団体から1事業につき50万円以内で募集して事業委託する。（過去に本事業で実施したことのある場合は30万円以内）
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	◆災害を乗り越えられるまちづくり【庄瀬地区自主防災会】 講師を招いて防災計画の必要性についての研修会やワークショップを開催し，地域全体で防災について考え，「庄瀬地区防災計画」を作成し，全戸配布した。 ◆笹川邸こども学芸員【味方地区コミュニティ協議会】 「平澤興」，「曽我量深」の二人の地域の偉人のキャラクターを生み出し，また地域の宝「笹川邸」について小中学生が学び，小学校6年生による笹川邸応援マップや小中学生による動画の作成を行い，広くPRを行った。 ◆月潟地域における文化資源の調査・研究とコンテンツ化【月面構想】 地域の財産である角兵衛獅子のより広い活用・周知することを目的に，学芸員や専門家の協力を得て，情報発信に活用できる映像やWEBページとして時代に沿ったアーカイブ発信しやすい形にした。 全国的にみても貴重な資源であるかつての月潟劇場を様々な専門家の助言等を受けながら劇場の調査・整備を行い活用方法を探った。 ◆写真と映画で語る白根大凧合戦と商店街【写真と映画で語る白根大凧合戦と商店街実行委員会】 白根今昔写真展「白根大凧合戦と商店街の今昔」，白根今昔写真クイズ「この写真，今はどこ？」，ドキュメンタリー映画の上映「白根紙鳶見聞録　凧ノ国」を行った。南区の地域の歴史や個性ある伝統・文化を知り，地域の方々の交流のきっかけづくりを行うことができた。 ◆こばやしの歴史地図作成【小林コミュニティ協議会】 コロナ禍のため，当初予定していた小学生の不参加は少し残念だったが，当協議会防犯部が主体となって，小林小学校PTAと連携し，小林地区の石碑等について現地での調査・取材を行い「こばやしの歴史地図」を作成し，小林地区の全世帯へ配布した。 ◆「かんたん　おいしい　おうちごはん」食育教室事業【新潟市食生活改善推進委員協議会 南支部】 昨年度作成したレシピ集を活用して，講話，調理実習などの食育体験を行った。コロナ禍のため，当初の予定より活動の制限があったが，保育園，小学校や地域行事などで，1773人に普及啓発を図ることができた。 ◆スカイランタン打ち上げ事業【月潟商工会青年部】 2021年も新型コロナウイルスのまん延が収まらず，月潟まつりや大道芸フェスティバルなどの地域行事も中止となり，閉塞感の漂う日々が続いたが，スカイランタンの打ち上げに加え，旧月潟駅の夜間開放や竹灯籠の設置を行うなどして，月潟地域の活性化を図ることができた。
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	○　採択されたそれぞれの団体から，コロナ禍ではあるが工夫をして地域の魅力を最大限に発信し，南区の活性化につながる個性あふれる事業が展開されていた。 ○　区内の様々な地域活動団体から事業の提案やその取り組みにより，自治協議会のPRにつながるとともに，応募団体の活性化にも寄与することができた。 ○　次年度は，より効果的な協働の推進と事業展開することを目的として，企業・団体も応募できることとし，審査基準を見直すなど募集要項を変更し，事業提案を募集する。

（※令和４年度　南区事業評価書は令和５年３月中に確定）

（仮称）各区自治協議会の活動・運営における課題解決に関する情報共有について（第８期から第９期へ）

第８期新潟市自治協議会会長会議

１　「区自治協議会の活動・運営に関するアンケート」について

（１）概要

区自治協議会の活動・運営に関して、第８期委員が感じている課題を把握し、より良い協働の仕組みづくりに役立てることを目的に、令和４年度に実施したものです。（以下、委員アンケートとする。）

（２）集計結果について

ア　回答数

８区合計　189 名/251 名　（回収率 75.2%）

イ　設問１：活動や運営における課題（3 つ選択）

課題	回答数	
自治協議会の認知度向上	97	１位
幅広い年代の委員の確保	83	２位（同数）
住民の意見・ニーズの把握方法	83	２位（同数）
地域課題の解決に向けた検討や話し合いの技術	55	４位
委員としてのスキルアップ	49	５位
各コミ協との情報共有・連携	47	
委員間における地域課題の共有	46	
民間事業者やNPO等との連携	40	
全体会や部会の運営方法	36	
発言のしやすさ	18	
その他	7	
未回答	6	
計	567	

・回答数の多い上位３項目と４位以下で大きな差がつきました。

ウ　各項目に関連する主な意見（自由記載欄より抜粋・要約）

自治協議会の認知度向上　【97 票】

・民間事業者やNPO、多様な主体との連携強化が認知度向上につながる。

・ワークショップをはじめ、地域に根付いた活動を継続することが、市民からの理解や賛同につながる。

幅広い年代の委員の確保　　【83 票】

・年代に偏りがあるので、年代別に委員数を設定してはどうか。
・委員や年代が固定化され、新しいアイデアや取組が出にくい。
・年代のみならず、幅広い職種・経験を有する方の選出が必要。

住民の意見・ニーズの把握方法　【83 票】

・協議内容が地域課題の解決にどれだけ反映されたのか可視化しにくく、検討するべき内容や成果を把握しづらい。
・一部会の所管分野が広範囲にわたっており、地域課題を絞りづらい。
・自治協議会から地域コミュニティ協議会へと個々の地域団体との関係性構築による情報収集・提供しやすい環境づくりに取り組む必要がある。

地域課題の解決に向けた検討や話し合いの技術　【55 票】

・提案を行う際はグループワークを盛り込めれば議論の密度が高くなる。
・行政からの連絡、市政方針などに関する報告が多く、地域課題への理解を深める時間が少ない。

委員としてのスキルアップ　【49 票】

・就任初期に自治基本条例、自治協議会条例、市の事業内容・予算・財政状況について研修で理解を深めることが必要。
・委員研修やスキルアップにつながる機会が少ない。
・諮問への対応や市・区への建議を行うために、相応の知識・思考力が必要。

その他の項目に関連する主な意見

・地域課題の共有以前に、各地域や活動状況など現状共有が不十分なのではないか。そもそも「課題」の定義も捉え方が人それぞれであるため、共通認識が作りづらい。
・自治挙はより広範囲に区・市全域に関連する規模の事業に取り組むべきである。それには自治協だけでなく、地域の事業者や NPO など民間との連携が必須かと考える。
・区内の産官学体など区づくりに参考となる特色ある業態の情報や仕組みについて、話を聞く機会を設けることで新たなアイデアに活かせるのではないか。
・Zoom や LINE などのツールを活用し、対面で集まらなくても遠隔で気軽に話し合える手法を取り入れていくべきではないか。

エ　設問 2：課題解決に向けて必要な改善・取り組みの方向性（1 つ選択）

改善・取り組み	回答数	
地域課題や住民ニーズの把握力強化に向けた取り組み	73	１位
広報・発信力強化に向けた取り組み	30	２位
全体会や部会の運営力強化に向けた取り組み	28	３位
地域団体等との連携強化に向けた取り組み	26	４位
自治協提案事業などの企画力強化に向けた取り組み	23	５位
その他	6	
未回答	3	
	189	

・回答数 1 位が突出し、2 位以下は大きな差がつきませんでした。

オ　各項目に関連する主な意見（自由記載欄より抜粋・要約）

地域課題や住民ニーズの把握力強化に向けた取り組み　【73 票】

・地域課題や住民ニーズの把握に取り組むための施策の 1 つとして、広報・発信力強化に向けた取り組みがあるのではないか。この 2 つを両輪で進めていくことも重要ではないか。
・学術機関や民間・NPO 等との連携を通じて、アンケートやデータ分析方法の専門性や技術を高める。
・各々の出身母体と密に連携を図り、委員がパイプ役となって議論等を持ち帰り地域の声を集約したうえで報告する役割の徹底が必要。
・自治協議会全体で捉えている地域課題と各委員が日頃感じている地域課のギャップを埋める努力がニーズ把握につながると感じている。
・ワークショップの積極的な導入など、委員間の情報共有、コミュニケーション作りの見直しを図る。

広報・発信力強化に向けた取り組み　【30 票】

・Twitter、Instagram、ブログ等の SNS 媒体をもっと活用するべき。
・地域の祭りやイベントなどに自治協議会として参加する機会を増やし、人との交流・つながりをつくる。
・アンケート調査を通じて存在をアピールできると考える。

全体会や部会の運営力強化に向けた取り組み　【28 票】

・報告事項が多く、従来の目的である審議事項が少ないので、提案しやすい会議運営への改善が必要。

・全体会で意見を言いづらいように感じるため、ワークショップを増やすなど、ざっくばらんに意見を言い合えるような雰囲気づくりが大切だと思う。
・幅広い年代の確保、特に若い人材を増やすためには、開催時間の変更やオンライン等での新たな運営手法について、検討していく必要がある。

地域団体等との連携強化に向けた取り組み　【26 票】
・テーマを１つ決め、各種地域団体からプロポーザル方式で企画提案をしてもらい、地域交流事業を行う。
・社会福祉協議会、公民館等の機関や各種団体が協働して事業を行えば、市民にとって利便性の向上につながると考える。そのために、自治協議会がパイプ役となり、相互理解・情報共有に努めながら連携を強化していくことが重要である。
・地域団体は明確な目的を持っている。目的を擦り合わせながら、各団体が得意分野を活かせるように、自治協議会が学校や PTA、NPO、ボランティア団体の活動を後押しする。

自治協提案事業などの企画力強化に向けた取り組み　【23 票】
・事業提案に向けた意見交換・ワークショップ、他区の事例共有等の機会を増やす。
・委員は企画力や行動力に弱さを感じる。課題の具体化時点から必要に応じて民間事業者や NPO と一緒に意見交換等を行えば、問題の掘り出しから活動の速度も上がるように思える。
・企画をするうえで、地域課題やニーズを分析する「調査の期間」と解決へ向けた事業を実施する「行動の期間」を設けシステム的に取り組む。

2　区自治協議会の課題に関する部会検討について

事務局からの提案事項（区民アンケート）や、委員アンケートで課題意識が高かった項目、区の実情に応じた検討すべき課題について、部会単位で検討・意見交換を令和４年度に実施しました。

実際に活動等に取り入れていくかどうかについては第９期委員の考えも必要になるため、検討は「決定」するのではなく「意見交換」の形式で行い、第８期委員からいただいた多様な意見を第９期委員に引継ぐこと目的に、次項より、各区の意見交換概要として本資料に掲載するものです。

各区自治協議会の活動・運営における
課題解決に関する情報共有

南区自治協議会

1. 第１部会

（１） 住民の意見・ニーズの把握方法

- **どのようにして地域の声の把握をしてきたか**
  - ・コミ協の事務局から。
  - ・コミ協内での毎月の定例役員会で。
  - ・地域での活動の中で。
  - ・選出母体は関係なく人とのつながりの中から。
  - ・役所との情報交換で。
  - ・選出母体から意見を集約することは難しい。

- **区民アンケートはやったほうがよいか**
  - ・やったほうがよい　６名　　やらない方がよい　２名

- **区民アンケートをやるとしたらどのような内容が適切か**
  - ・結果を自治協の活動に生かせる内容。
  - ・自治協委員として住民のニーズ把握ができる内容。
  - ・自治協の存在、役割について認知度の確認。
  - ・自治協議会運営指針についての意見。
  - ・区民目線での自治協議会のあるべき姿。
  - ・若者の意見を取り入れるため、SNS を活用する。

- **アンケートの対象者は誰が適切か**
  - ・対象者を限定する。（例）学童保育の保護者を対象として、女性の意見を吸い上げる。
  - ・コミ協の役員や自治会長を対象とする。

2. 第２部会

（１） 区自治協議会の認知度向上について

- **認知度向上の必要性について（認知度が低いデメリット）**
  - ・活動する際に「自治協とは何か」という説明からする必要がある。
  - ・自治協議会についての理解が図られていないと、事業への理解も進まない。
  - ・自治会や他の協議会と混同される（「〇〇協議会」はたくさんある）。

- **なぜ認知度が低いのか**
  - ・どのような活動をしているのか理解されていない。
  - ・自治協議会が何をする団体なのか分からない（委員自身もよく理解していない）。
  - ・自治協で議論されていることが地域にフィードバックされていない。

- **どのようにして認知度を上げればよいか**
  - 分かりやすい名称や組織図を作成する。
  - オブザーバーなどで、大勢の人から参加してもらう機会を増やす。
  - 事業の実施は認知度を上げる良い機会なので、PR に工夫する。
  - 選出母体に議事録を共有する。
  - 選出母体で自治協の報告を議題にして共有する。
  - 学校との連携をすすめ、子どもや保護者への認知度を上げる。
  - 地元企業から協力してもらい、社員から参加してもらう。
  - 事業成果を PR する。

- **認知度向上の効果**
  - 区民と行政の協働の要である、自治協議会の認知度が向上することにより、区づくりが進むことが期待できる。
  - 委員を通じて区民の意見が多く届き、区づくりに活かすことができる。

- **その他**
  - 自治協の活動が評価されると嬉しい。

3. 第 3 部会

（1） 委員研修に盛り込むことが望ましい内容について

- **活動していて困ったこと**
  - 区内の地域活動の実態を把握するのが難しい。
  - 自治協委員としての活動と地域のニーズがあっているか不安を感じる。
  - 自治協のことをしっかりと理解していないため、根拠をもって活動できない。
  - 選出母体へフィードバックすることが難しい。
  - 選出母体から意見を集約することが難しい。
  - マスクを着用しての活動だったので、表情が分かりづらい。また、親睦が図りづらい。
  - 地元の人の自治協に対する関心に温度差がある。

- **どのような知識や能力があると活動しやすかったか**
  - 南区の各地域の実態が把握できている。
  - 区役所との深いつながりがある（区に各コミ協の担当職員がいると良い）。
  - 区の施策への十分な理解がある。

- **どのような研修をするとよいか**
  - 地域の実態を理解するための現地視察研修を実施する。
  - 地域活動やまちサポ事業へ参加する。
  - 「自治協とは何か」が分かる初任者研修（市全体で）。
  - 楽しく、分かりやすい仕掛けがあるとよい。

- **その他**
  - 「自治協協力員」制度をつくり、大学生など多様な人からスポット的に会の活動に参加してもらう。
  - 多様な人から参加してもらうためには「平日日中」の会議開催を再考する必要がある。